

学校行事(修学旅行、集団宿泊学習、運動会)を通して学んだこと

本校は、豊かな心づくりのなかで「自己指導能力の育成」をめざしています。具体的には学校行事を「生徒が主体となり、企画・判断・決定・実践する場」にすることで、GW明けから3年生の修学旅行、1年生の集団宿泊学習、そして運動会と大きく、そして生徒にとっても我々教師にとっても重要な行事が続きましたが、そのなかで自己指導能力の育成を意識した取り組みが随所に見られました。

例えば、修学旅行では実行委員会を立ちあげ、平和やルール、バスレクなど、7つの担当に分かれて準備を進め、出発前には生徒から生徒への呼びかけを行うなど、「自分たちで創りあげよう」を目標とした取り組みが見られました。さらに、旅行中は一人一役で司会や挨拶を行い、自覚と責任感を担う良い経験にもなっていました。集団宿泊学習では、10名程度のリーダーを募り、そのリーダーたちが司会、挨拶等の役割を担っていました。また、キャンドルサービスも担当者を決め、彼らが活動を運営し、創りあげていました。まだ入学して1ヶ月なので、当然たどたどしさや未熟さはありましたが、マニュアルをもとに、一生懸命に責任を果たそうとする姿が見られました。運動会に向けての練習では、ラジオ体操やソーラン練習において、リーダー役が前に立っての生徒への指導や、先輩から後輩への異学年でのマンツーマン指導など、自分たちで行事を創りあげようとする姿勢が見られました。そこでは、普段と異なる一面を見せる生徒もおり、その意外さに驚き、感心させられました。

特に運動会は、4月に新しい学級となり、今ここにいるメンバーで、力を合わせなければできない競技や演技に取り組むことで、学べるがたくさんあります。また、久しぶりに全学年が2クラスとなり、今後少なくとも3年間は続くこともあって、運動会練習が始まる時に、私は子どもたちに「競い合う競争も大事だが、共創(共に創る)も大事にしてほしい。どのような姿になれば理想なのかを考え、具体的な行動として表現してほしい」とお願いしました。本番は、「勝敗に関係なく、共に競技した相手に最大限の敬意を払う」や「最後まで頑張っているなかまを応援する」、「学年に関係なく、兄弟学級の応援をする」など、予行よりも成長した姿を見ることができ、共創への意識の高まりを感じることができました。子どもたちや我々の運営面には、まだまだ多くの課題がありますが、それを伸びしろと捉え、毎年修正を加えながら、より良い運動会、そして持続可能な学校行事の実現に向けて、今後も引き続き努力していく所存です。

最後になりましたが、運動会当日(5月25日)は雲一つない素晴らしい晴天の下、多くの保護者の皆様、地域の皆様のご観覧をいただき、盛大に運動会を開催することができました。この日を迎えることができたのは、保護者の皆様に運動場の環境整備を手伝っていただいたことや運動会に向かう日々の子どもたちを家庭で支えていただいたこと、学校周辺の皆様に練習中の音楽やマイク音等が響く中、その取り組みを温かく見守っていただいたことなど、周りの方々のご理解とお力添えがあつてのことと、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

